



社会福祉法人 **黎明董会**

当法人では、利用者の自立した生活を目指して、それぞれ特色のある4種類のデイサービスを運営しています。「謙虚」「誠実」「小さな幸せ」という董の花言葉のように、自分らしく穏やかにこの町で暮らせるよう、真心をこめて支援いたします。

業種 医療・福祉 所在地 御坊市湯川町財部728-4 TEL 0738-32-2337 FAX 0738-24-3155

従業員 正規34名(男9:女25) / 非正規66名(男7:女59)

結婚・子育てのための取り組み 育児休業／産前産後休業／短時間勤務／半日単位の有給休暇
子の看護休暇／育児復帰支援プラン



WEB <https://hck.jp>



産前産後も、子供が少し成長してからも、 育児と仕事の両立をサポートできる環境へ



「自分だったら」と置き換えて、働きやすさを試行錯誤

もともと北出病院系列の(有)ヒューマンキタデとして介護事業を始めたのですが、2017年、社会福祉法人として、より地域の役に立てるようにと黎明董会を設立することになりました。リハビリ型(1日・半日)・療養型・認知症対応型のデイサービス・ホームヘルプサービスをはじめとした居宅型介護支援や、福祉用具のレンタル・販売などが私たちの主な事業です。



理事長／北出 志津佳さん

女性職員が多いため、家事・育児と仕事の両立は大きな課題です。特に介護の仕事は妊娠が判明した時点で業務が困難になるため、以前は退職する職員が多くいました。しかしこの業界にとって人材の損失は大きな問題で、人材確保のためにも、産前産後休業や育児休業を取り入れるなど、様々な

場環境の改善を行いました。現在、妊娠した職員には軽作業業務や事務的な作業を優先的にお願いしています。また、職場に主婦や子育て世代の職員が多いため理解が得られやすく、この10年で少しずつ制度利用者も増えました。中には3回出産を経験した職員もいますし、手続きの際にはみんな子供を連れてきてくれるので、そのたび場が和んでいます。

もちろん、子育ては子供が小さい時だけではありません。成長すれば行事や習い事も増えてきます。当法人ではシフト制となっていますので、子供の都合に合わせて予定を組みやすいのも特徴です。また有給休暇は法定以上の半日単位で取得できるようにしています。子供の定期検診や学級面談、参観日などの時にはこれらの制度を利用してもらっています。基本的に「職員を一番に大事にしたい」というのが根底にあり、常に「自分だったら」と置き換えて考えるようにしています。

解消したい課題

体力的に不安がある妊娠中・産後の働き方を改善したい

- 妊娠することで介護現場での業務が困難になり、離職の原因に。
- 出産後すぐはフルタイムでの仕事との両立が難しく、職場復帰を諦める人も。
- 子供の行事や習い事での休みが取りにくい。

課題への取り組み

負担を減らし、育児と仕事の両立を模索

- 産前産後休業や育児休業、短時間勤務などの制度を取り入れ、**育児と仕事の両立がしやすい職場環境へ。**
- 妊娠したタイミングで体力の必要な現場から**負担の軽い事務仕事に優先的に変更。**
- **半日単位の有給休暇とシフト制をうまく組み合わせることで、**子供の行事などに参加しやすいように。

導入成功のアイデア

- 主任や副主任クラスにも女性が多いので、育児についての相談がしやすい環境がつけられました。
- 若手もいれば孫がいる職員もいるなど年齢が幅広いので、子育てについての豊富な知識やアドバイスが得られることが、育児経験の少ない職員の手助けになりました。

導入の成果

各世代で育児と仕事の両立がしやすい環境に

- 職場環境の改善で、**妊娠後の離職率が軽減**。3人目の出産を経験した職員も。
- 制度を活用することで、子供の行事に合わせたスケジュールを組め、**子供との時間が増えた。**

現場の声

【産前産後休業と育児休業、短時間勤務を利用した作業療法士の山本さん】

事業所全体に相談しやすい雰囲気がある



以前は病院に勤めていたのですが、結婚を機に退職。子供が生まれ復帰を考えた際に、病院勤務となると患者様を受け持つ事となり、子供が急な体調不良を起こした時には迷惑をかけてしまうと思い黎明董会で働きはじめました。

所の行事などにも対応できるので助かります。育児と仕事の両立がしっかりできるか不安でしたが、短時間勤務や半日単位の有給休暇などを利用することでスケジュール調整をできたことが心のゆとりになりました。また、上司から定期的に仕事や体調の不安などを聞いていただいたことも心強かったです。

ここでは利用者さんの担当はなく、私以外にも機能訓練を受け持つ職員が居るため休みが取りやすく、子供の体調不良や学校・保育所になっても、仕事を続けていけると実感しています。



課題解決までのプロセス